

# 大栄環境 金子文雄社長に聞く(下)

—森林保全事業にも注目しているが。

「森林保全事業は環境事業の極みだとして取り組んでいる。子会社の総合農林が山林を保有しており、こうした山林などを活用して地域づくり事業の立ち上げやモデル事業の確立などに取り組んでいる。具体的な事例として

は奈良県十津川村に約1400畝の土地を保有しており、そこで村と一体となった森林保全や木材の供給事業に取り組んでいきたいと考えている。

また、千葉県富津市では社のDINETS塚が中心と堆肥化等による発酵リサイクルのコンポスト事業なども検討している」

—資源循環の革新に向けた展開は。

「二つは森林保全事業。大栄環境の和泉工場、三木市です

社内のDINETS塚が中心となって設立したグリーンアローズ関西では石炭ボイラのリサイクルを行っている。最終処分量の低減に大きく貢献しています。大栄環境の和泉工場、三木市です

「廃棄物と木材由来のバイオマスを資源として活用するハイブリッド発電施設の建設を計画しています。大栄環境の和泉工場、三木市です

できる見込みだ。いずれも日雇400ト規模の廃棄物処理施設を計画している。こうした地元から誘致を受けるというのも異例なことだ。われわれの取り組みが認められた可能性も出てくると思う

「まずは自治体からの運営管理業務受託については今後も増えていくであろうし、柱の事業の一つにしていきたいと考えている。DBO案件についてはすでに実績を挙げている。今後、今後も増やしていく計画だ。加えて民営化、いわゆるBOOの可能性も出てくると思う

「また、こうした場合も作っていく。また、エネルギー事業では処分場跡地のメカソーラー事業を行っているが、この春第2メカソーラーが竣工したところだ」

「事業スキームの発展では、

「この数年間でかなり認知していただけるようになってきたが、一般に広く理解されているかという点はまだ不十分だ。従来から掲げている『オーソマン・ふれあい・感謝』を基本とした広報活動等を継続していくことでより認知度を高めていき、社会に影響ある発信ができるようにしていきたい。

「現在取り組んでいる第7次経営計画では売上700億円、経常利益70億円を掲げているが、経常利益については17年度はこれを上回る見込みだ。18年度に目標の78億円をクリアできる見込みとすれば、前倒して新たな第8次経営計画を策定していくことも検討したいと考えている。ただ、今期についてはまずは気を緩めず取り組んでいきたい。しっかりと足元を固めていきたい」

## 広報活動等継続し、より認知度高め 社会に影響ある発信できる企業に 自治体施設の運営管理業務を今後の柱の1つに

この関連で、森林資源の集積・加工工場の整備と販売事業の拡大を図っていく。また、まだリサイクルの計画が具体的に進んでいないので、できる限りリサイクルの拡充で、子会社

「まず自治体からの運営管理業務受託については今後も増えていくであろうし、柱の事業の一つにしていきたいと考えている。DBO案件についてはすでに実績を挙げている。今後、今後も増やしていく計画だ。加えて民営化、いわゆるBOOの可能性も出てくると思う

「また、こうした場合も作っていく。また、エネルギー事業では処分場跡地のメカソーラー事業を行っているが、この春第2メカソーラーが竣工したところだ」

「事業スキームの発展では、

「この数年間でかなり認知していただけるようになってきたが、一般に広く理解されているかという点はまだ不十分だ。従来から掲げている『オーソマン・ふれあい・感謝』を基本とした広報活動等を継続していくことでより認知度を高めていき、社会に影響ある発信ができるようにしていきたい。

「現在取り組んでいる第7次経営計画では売上700億円、経常利益70億円を掲げているが、経常利益については17年度はこれを上回る見込みだ。18年度に目標の78億円をクリアできる見込みとすれば、前倒して新たな第8次経営計画を策定していくことも検討したいと考えている。ただ、今期についてはまずは気を緩めず取り組んでいきたい。しっかりと足元を固めていきたい」



金子文雄社長